

「学べるアルバイト」奮闘

東海市の伊藤商店で学生4人

学びながら給料を得て地域に貢献。東海市加木屋町の生コンクリート製造販売「伊藤商店」で、「学べるアルバイト」として働く学生4人が、7月7日に開く親子工場体験を企画、運営する。学生の視点を生かしながら、参加者が生コンクリートについて学べるよう工夫を凝らす。「頑張りが直接目に見える」と張り切っている。

(加藤隆士)



親子工場体験のリハ
ーサルをする学生た
ち＝東海市加木屋町
の伊藤商店で

親子向け工場体験企画、来月運営

工場体験では参加者が生コンクリートを使った植木鉢作りに挑戦する。本番を前に22日、学生たちは実際に植木鉢を作った問題点、解決策を話し合った。

「生コンクリートと水を混ぜるときに、だまがでかいように呼びかけたい」「こぼれないようにするにはどうすればいいか」。学生の実験前に、それぞれの収穫を得ている。コーヒーチェーン店でアルバイトをしたことがある。さんは「チェーン店と違ってマニュアルはないから、自分たちでつくり上げる頑張りが直接評価されている」、さんは「大学では企画までやっても実際にやることはない。実践できるのは良い経験」と手応えをつかんだ。

4人は名古屋工業大学3年のさん、日本福祉大学社会福祉学部3年の毛利真稀さん(20)、南山大経営学部2年のさん(19)、名古屋外国語大世界教養学部1年のさん(18)。

「学べるアルバイト」は学生自身が主体となって仕事を企画、運営して経験を積み、給料も得られる。同社が取り入れるのは2度目。伊藤さんは「普段は工務店やゼネコンを相手にしているの、会社が地域と直接関わることはなかなかない。学生を通じて、地域の人に知ってもらいたい」と4人の働きに期待する。

公務員を目指す毛利さんは「地域と企業の関わり方が勉強になった」と就職活動に生かし、プレスリリースの文章を書いた。さんは「力いっぱいやることはできた」と自信をつけた。体験は植木鉢作りのほか、生コンクリートと水の関係を調べる実験、工場見学など。親子5組16人が参加する予定。募集半日で定員に達した。